

第1学年 社会科学習指導案

令和元年11月7日(木)

1年1組 計10名

授業者

1 研究主題との関連

本校の研究主題「主体的・対話的に深い学びに向かう生徒の育成～小規模校のよさを生かした教育活動の工夫を通して～」に迫る手立てとして、ペア学習（フォトラングージ等）を通して、主体的・対話的に思考力・表現力の育成を図る。

2 前回の検証授業の課題を受けて

(1) 前回

① 指導

- ・説明が長い

② まとめ

- ・時間の確保

③ ふり回り

- ・生徒とのやりとりをしながら行うべき

(2) 今回

① 指導

- ・説明を簡潔にする等の工夫をする

② まとめ

- ・時間の確保を充分にとる

③ ふり回り

- ・生徒とのやりとりをしながら行う

3 授業の内容

第2部 日本のさまざまな地域 第1章 日本の姿

【年間指導計画 (1) 学年(11)月計画 P(124)】

4 単元について

(1) 単元目標

世界における日本の位置や世界と比べた日本の地域的特色、日本の諸地域の特徴等を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 単元の評価規準

地球儀や地図等を活用し、我が国の国土の位置、世界各地のとの時差、領域の特徴と変化、地域区分等をまとめ、日本の地域構成を大観することができる。

(3) 指導計画と評価（6 時間）

時間	学習活動・ねらい	評価規準	評価方法
1	1 世界の中での日本の位置 ○日本の位置は、世界からみた場合、どのように表されるのか。	地球儀等を活用し、日本の位置を示すことができる。	活動観察
2	2 時差でとらえる日本の位置 ○世界各地の時差は、どのようなしくみで生じるのか。	日本とおもな国々（都市）の時差を計算することができる	活動観察
3 本時	3 日本の領域と領土問題 ① ○日本の領域には、どのような特色があるか	領域のしくみや日本の領域の特色を理解することができる	活動観察・発表
4	3 日本の領域と領土問題 ② ○日本の領域には、どのような問題をかかえているだろうか	日本がかかえる領土問題について、調べ発表することができる	活動観察・ワークシート・発表
5	4 都道府県と県庁所在地 ○都道府県や都道府県庁所在地は、どのような経緯で置かれたのだろうか	都道府県名や都道府県庁所在地を覚える	活動観察・ワークシート・ミニテスト
6	5 さまざまな地域区分 ○日本には、どのような地域区分があるのでしょうか	日本には、さまざまな地域区分があることを理解する	活動観察・ミニテスト

(4) 教材観

本単元では、我が国の海洋国家としての特色を取り上げ、北方領土や尖閣諸島が我が国固有の領土であること等の我が国の領域をめぐる他国との問題に着目させる。また、小学校社会科での学習内容である我が国の国土の自然などの様子と関連させ、国土の地形や気候の概要について学習を行い、太平洋や東シナ海等周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などにも着目させたい。

(5) 生徒観

英語検定や数学検定を受検する生徒が多数いる等、意欲的に学習に取り組む姿勢が多くみられる。

一方で、交流は見られるが、互いでサポートし、意見を練り合いながら、学習を進めていくことに課題がある。本時の授業ではペア学習を取り入れ、意見交流をしながら学習理解を深め、学び合いの場となる授業をめざす。

(6) 指導観

本単元では、日本の位置や時差等を学び、我が国の国土や地域に関して、国土的特色や地域の諸事象を理解させ、諸資料等から地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる能力が身につくだろうと考えられる。

また、地理的事象に対して、生徒が向き合っていく仕掛けを取り入れ、周りの生徒と意見を練り合いながら、地理的事象を主体的に、自らの問題としてとらえ、自らの考えを深める授業の確立をめざす。

5 本時の学習（ 3 / 6 時間 ）

(1) 目標

我が国の領域の特色を資料等から読み取り、発表することができる。

(2) 本時の授業仮説

地理的事象（沖ノ鳥島を守る等）に対して、ペア学習（①問題作成 ②フォトランゲージ）を取り入れることにより、生徒自ら、主体的・対話的に学習理解を深めることができるだろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価と支援
導入 5分	○我が国について考える ○本時のめあてを確認する		前時の学習内容を確認める
	日本の領域には、どのような特色があるか。資料等から読み取り、発表できる		
展開 37分	1 ペア学習 ①（問題作成） 「ペアで他ペアに対して、P1 2 4～P1 2 5 から問題を作成する」・重要事項をペア各自で確認し、皆で共通確認する(学習内容の確認) 2 日本の領域 板書 3 ペア学習 ②（フォトランゲージ） 「択捉島、与那国島、沖ノ鳥島の写真を用いて」・広大な領域を持っていることと沖ノ鳥島を守る意味を考える	・2人ペアを組む ・ホワイトボードの準備 ・それぞれのペアに対して、作成ページの指定 ・3班に分ける ・題名まで決めて、発表する	・モデルを提示する 「EU で共通の通貨は？」 ・ペアで問題を作成し、他ペアの問題を答えることができる ・発表することができる ・解説を行う

終 末 8 分	○まとめをする ○本時のふり返しをする	・各班で発表する ・本時のふり返しを記入させる。	・発表することができる
----------------------	----------------------------	---------------------------------	-------------

(4) 本時の評価

ペア学習を行い、意見交流、発表等を通して学習理解を深めることができたか。

(5) 板書計画

めあて 日本の領域には、どのような特色があるだろうか。

1 日本の領域

・領域…一つの国の範囲

領土

領海(海岸線から12海里) …1 海里 1852 メートル

領空(領土と領海の上空)

・日本の領土…北海道、本州、四国、九州+数千の島々 ←アンダーライン指示

・国土面積…約38万km²

2 排他的経済水域…海岸線から200海里以内

沿岸国が水産、鉱産資源を利用する権利

まとめ (ペア学習で発表)

・島国である

・排他的経済水域が領土よりもかなり大きい
など

(6) 座席表

PC・電子黒板	黒板
---------	----

(7) ワークシート・その他活用資料

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編(2018) 文部科学省